

令和6年度第1回土木計画学研究委員会幹事会議事録

日時：令和6年9月6日（金）18:40-20:00，9月7日（土）8:30-11:00

場所：ハイブリッド開催

9月6日（金）：スタンダード会議室・仙台一番町ホール店・6階B会議室，Zoom

9月7日（土）：TKP ガーデンシティ仙台 カンファレンスルーム 21F，Zoom

■ 出席者（敬称略）

委員長：佐々木 邦明（早稲田大学）

副委員長：辰巳 浩（福岡大学），山崎 基浩（豊田都市交通研究所）

幹事長：福田 大輔（東京大学）

学術小委員会：岸 邦宏（北海道大学，9/6のみ）*

大会運営小委員会：日比野 直彦（政策研究大学院大学，9/6のみ）*，有村 幹治（室蘭工業大学，9/6のみ）*

委員兼幹事：浅田 拓海（室蘭工業大学），石井 良治（計量計画研究所），井上 亮（東北大学），金子素子（アルメック），樋口 恵一（大同大学）*，山口 裕通（金沢大学），大平 悠季（東京都立大学），加藤 哲平（長岡技術科学大学），佐藤 史弥（山梨大学），中尾 聡史（京都大学），兵頭 知（徳島大学，9/6のみ）*，大山 雄己（東京大学，議事録担当）

委員：谷下 雅義（中央大学，9/7のみ 9:45～参加）

*：オンライン参加者

■ 欠席者（敬称略）

委員兼幹事：尾野 薫（宮崎大学），福井 のり子（バイタルリード）

令和6年度秋大会開催校幹事：橋本 成仁（岡山大学）

■ 議事（敬称略）

- 福田幹事長から開会の挨拶があった。

1. 委員長 挨拶（佐々木），参加メンバー 挨拶（全員）

資料1

- 佐々木委員長より挨拶があった。
- 参加メンバー全員より，一言ずつ自己紹介と挨拶があった。
- また福田幹事長より，委員会及び幹事会の構成について説明があった。

2. 前回委員会の議事録確認（福田）

資料2

- 前回議事録の内容については特に修正意見がなかったため，原案通りの内容で委員会ホームページにて近日中に公開することとした。

審議・報告事項

3. 学術小委員会からの報告（岸）

資料3

- 岸小委員長より，資料3に基づきD3特集号の査読状況及びスケジュールについて報告があった。
- また「政策と実践」については学術小委員会とは別組織で査読を実施しているが，来年は部門を1つ追加し，学術小委員会で一本化する方向で議論を進めている状況について説明があった。それに対して，福田幹事長からは来年度の特集号からの体制変更の提案があり，佐々木委員長からは「方法と技術」と「政策と実践」のスタイルの違いに注意をして進めるよう指摘があった。
- スケジュール案については論文提出期限が計画学秋大会の日程とオーバーラップしているため，再調整（延期）の方向で議論された。

4. 大会運営小委員会及び秋大会開催校からの報告（日比野，橋本）

資料4

- 日比野小委員長から，資料4に基づいて秋大会の実施計画，セッション・発表者の応募状況，スケジュール，暫定プログラム案について報告があった。
- またスペシャルセッション（SS）の増加等理由でプログラムが組みにくくなっている現状について報告があり，投稿・セッション数制限やワンデイセミナーとしての開催依頼などの対応策

の提案があった。これに対して福田幹事長からは、過去の分析やセッションの内容に重複があること、佐々木委員長からはSSの位置付けの見直しの必要性などについての懸念が挙げられた。

- 福田幹事長より、会場費用や託児所等、大会開催に関するファイナンシャルサポートとして幹事会予算を充てることの提案があった。
 - さらに計画学研究発表会の講演集のCD-ROM発行を取りやめる提案があり、他学会の状況やほとんど使われない実情を考慮し、取りやめの方向で運営小委員会と学術小委員会で今後議論を進めていくこととなった。佐々木委員長からはアクセスコントロールの問題について指摘があった。
 - 秋大会の委員会報告日程（16:00-17:00）に合わせて、次回委員会を11/15（金）14:30-15:30（対面・Zoomのハイブリッド形式）に設定した。
 - 来年度の春大会の開催日程が6/7・8（土・日）であることを確認した。大会運営小委員会から3月の幹事会で準備状況を報告すること、また委員会HPで開催日程・場所を近日中に公開する運びとなった。
5. 調査研究拡充支援金（委員会予算）の配分について（福田・山口） 資料5
- 福田幹事長より、調査研究拡充支援金の配分状況について説明があった。予算の有効利用について今後意見を募集することが確認された。
 - 山崎副委員長から能登半島地震の調査・研究に使う提案があり、幹事会として承認した。
6. 幹事会業務分担の確認（福田） 資料6
- 以下の通り、委員兼幹事の業務分担の確認があった。
- A) 幹事長補佐： ○山口，大山* [○：主， *：副]
B) 全国大会担当： ○井上，○浅田，加藤*，中尾*
C) 研究小委員会対応： ○尾野，兵頭*
D) 防災対応・Web管理担当： ○樋口，佐藤*，谷下 [能登半島地震対応]
E) 広報・ワンデーセミナー等： ○石井
F) 出版委員会・IPML等： ○大平
G) 新規企画担当： ○金子，福井*， [山崎，辰巳]
7. J-Rail論文のアーカイブ化について（福田） 資料7
- 計画学委員会の予算からJ-Rail論文のアーカイブ化（90万円ほど）の費用を支出することについて承認された。
8. 「土木学会略史（2014-2024）（仮称）」の原稿執筆について（福田） 資料8
- 福田幹事長より、土木学会創立110周年記念の略史の原稿執筆について説明があった。過去10年の土木計画学委員会の活動について、委員兼幹事の担当に従って役割分担し基礎的情報の収集および執筆を進める流れとなった。
9. 重点研究課題募集について（福田） 資料9
- 福田幹事長より土木学会の重点研究課題募集について説明があり、幹事会からの提案を今後検討していく運びとなった。
10. 各担当からの報告
- 学会出版企画の募集について（大平） 資料10
 - 大平委員から、学会出版企画の募集・進捗状況について報告があった。
 - ワンデーセミナーの企画について（石井） 資料11
 - 石井委員から、第109回の土木計画学ワンデーセミナーの企画について説明があり、開催が承認された。
 - 全国大会の幹事会主催企画の報告（井上，浅田） 資料12
 - 井上委員から、9/2-6の全国大会にて実施された幹事会主催企画の報告があった。研究討論会については話題提供者からの許可を得て、近日中にYouTubeで公開する予定となった。
11. 令和6年能登半島地震対応特別プロジェクト・秋大会での企画（山口・谷下・福田） 資料13
- 秋大会，土木学会論文集での企画
- 山口委員・福田幹事長から秋大会での能登半島地震特別プロジェクトに関する企画セッション

ン・スペシャルセッションの開催について説明があった。

- また福田幹事長より、企画セッションに投稿された論文をもとに土木学会論文集（通常号）の特集を企画することの提案があり、幹事会の賛同を得た。今後、梶谷前委員、樋口委員、山口委員、浦田前委員、福田幹事長の5名でEditorial担当を含め主体に進め方を議論していくことになった。

12. 秋大会における委員長・幹事長主催スペシャルセッションについて（佐々木・福田） 資料 14

- 佐々木委員長・福田幹事長より、秋大会での幹事会主催スペシャルセッションの開催意図・概要について説明があった。

13. その他

・ 令和6年度第2回幹事会について（福田）

- 上述の通り、次回委員会を11/15（金）14:30-15:30（対面・Zoomのハイブリッド形式）に設定した。
- 令和6年度第2回幹事会は仮で3/16・17（日・月）の1泊2日@函館に設定した。

・ フリーディスカッション（60周年記念行事に向けた検討、秋大会の内容の再検討等）（全員）

- 60周年記念行事について

- 福田幹事長および山口委員より、60周年記念行事に向けて、過去のフリーディスカッションの概要について説明があった。3月の幹事会で集中的に議論することとなった。

- 秋大会の内容の再検討等

- 福田幹事長より過去の企画セッションのタイトル・キーワード分析の結果について報告があり、特に直近で内容の偏りがある状況について問題提起がなされた。これを受けて、各委員が研究発表会について順番に発言した。以下のような意見があった：

- ・ テーマの偏りや、完成された研究の報告が多いという現状は、企画セッション創設当時の趣旨と合わなくなってきている。
- ・ 企画セッションにも、固定化され長く続いているセッションが多い。学術的に深い議論ができる意味では意義は大きい。一方で、メンバーが固定化され、閉鎖的になっていて、新規参加がしにくいセッションもある。
- ・ 土木計画学のメインストリームな研究から外れていると、企画セッションには論文を投稿しにくいという現状がある。
- ・ 今回の全国大会の幹事会主催セッションは面白かった。テーマを広く課題から設定し募集したため、分野横断的で総合知のようなセッションになったのではないか。
- ・ 秋大会の企画セッションでは、分野横断セッションはいくつか立てられているものの、問題提起や新規開拓的な研究を受け入れるゆとりのあるセッションはまだ少ない。
- ・ 春大会が卒論・修論直後で速報的な発表ができるタイミングだが、特集号投稿スケジュールの関係で秋大会と逆になっている。
- ・ 計画学は他の学会に比べて大学関係者の比率が高いのではないか。特集号の投稿権利を得ることが目標になっているなど、論文投稿を強く意識した研究発表も多い。
- ・ 企画セッションの重複や数を運営側でコントロールする工夫も必要ではないか。オーガナイザーに提案時にカテゴリを選択させるなど。
- ・ コアな議論はワンデイセミナーや小委員会での開催も検討する。一方で、企画セッションとして開催することで、申込型ではこないような参加者も期待できるということもある。
- ・ プロジェクトや企業のPRの場がないため、現状では発表を無理やりせざるを得ない。ブースなどを設けるのも一つの手ではないか。
- ・ 土木計画で扱う「計画」の対象が（少なくとも発表として）交通・道路等に偏っているのではないか。
- ・ 比較的对象がはっきりしている都市計画学会や交通工学研究発表会に比べて、土木計画学の範囲が曖昧ではないか。他方で、（本屋で偶然良い本に巡り合うように）多様な分野の

発表がある計画学では，他分野の研究との思いがけぬ交流もある．

- ・ 全国大会の年次学術講演会の IV 部門の投稿論文にも，土木学会論文集・土木計画学特集号の投稿資格を与えるという案も考えてよいのではないか．
- ・ 学会自体にゆとりやワクワク感が欠けてきている．学会に参加したくなる，その上で自分の利益にもなる，というようになっていくための工夫を考える必要がある．
- (総括) 以上の主要な論点を踏まえ，特に秋大会・企画セッションやスペシャルセッションの改善の提案について，次回秋大会の委員会報告の場で幹事会としての問題意識についての発信を行う方向で意見をとりまとめていくこととした．

以上